

警 察 署 協 議 会 議 事 録

協 議 会 名	令和7年第3回 仙台北警察署協議会
開 催 日 時	令和7年11月14日（金） 午後3時00分から 午後3時50分まで
開 催 場 所	仙台北警察署 6階大会議室
出 席 者 等	<p>1 協議会委員～10名 出席委員～西嶋康雄会長、伊勢屋友子副会長、田中康委員、高橋智男委員、寺下昌子委員、菅野哲也委員、引地萌恵委員、千葉晴洋委員、菅原高広委員、早坂訓江委員</p> <p>欠席委員～0名</p> <p>2 警 察 署 側～12名 署長、副署長、刑事官、副参事、警務課長、留置管理課長、生活安全課長、地域課長、刑事第一課長、刑事第二課長、交通課長、警備課長</p>
議 事 概 要	別紙のとおり
備 考	

備考 所定の欄に記載することができないときは、別紙に記載の上、添付すること。

別 紙

1 報告事項等

(1) 管内の治安情勢・交通事故発生状況について（署長）

署長から令和7年9月末現在における刑法犯認知検挙状況、交通事故、特殊詐欺の発生状況等の管内の治安情勢について説明がなされた。（委員からの質問なし）

(2) 令和7年下半期における速度取締の指針について

交通課長から、仙台北警察署における速度取締り重点等について説明がなされた。（委員からの質問なし）

2 意見・要望等

(1) 令和7年第1回協議会における質疑のその後の対応等について

西嶋委員： 令和7年第1回協議会において、SEIYU柏木店の交差点で右折しやすいよう、右矢印信号表示の追加について検討を依頼したが、その後の対応状況や進展状況は如何か。

交通課長： 現地調査を実施した結果、南進車両が多い状態で交差点内に滞留する車両も認められる状況であった。

一方、右折車両の需要については、右折できない場面が常態化しているわけではなく、右折車両が全くない場面も確認している。

右折車両を安全に通行させようとした場合、周辺の信号機を含めた調整が必要となるが、交通実態から見て、現時点での対策の必要性は低いと考えている。

また、信号機を改修することにより、本来抑制すべき小学校側への交通量が増大する恐れもあり、歩行者の安全の観点から右折を容易にする施策は疑問が残る。

仮に設置する場合でも、当該箇所は渋滞頻発箇所であり、右折矢印を導入すると同方向からの直進を阻害する形となることから、矢印信号ではなく時差式信号機になる可能性が大きいと思われる。

これら調査結果から、現時点における設置の必要性は高くないと判断しているが、引き続き、警察本部とも連携し、交通状況の改善が可能か検討を進めていきたい。

西嶋委員： 承知した。

(2) 厚生病院脇の逆送車両の増加について

伊勢屋委員： イオンモール仙台上杉店がオープンし、厚生病院脇の堤通の逆走車両の増加は如何か。

同所付近では北八番丁通からの逆走車両を以前より多く見かけるようになった。

交通課長： 10月8日のグランドオープンの際、イオン側が配置した誘導員の位置が悪く、誤った誘導をした事案があり即時是正を求めたほか、週末を中心に一方通行を逆走する車両が一定数あることを把

握しており、イオン側とも情報共有している。

9月27日から、市道堤通線上に設置した可変標識が稼働を開始しており、逆走抑止に一定の効果があるものと期待している。

10月1日以降、逆走に伴う交通事故の発生はないものの、今後も一定数の逆走車両があることが見込まれることから、警戒活動の強化や広報を実施して、逆走車両の抑止に努めたい。

伊勢屋委員：承知した。

(3) レンタル自転車利用者に対する交通安全指導等の状況について

田中委員： ダテバイクやL U U P等のレンタル自転車が多く見受けられるようになったが、逆走や歩道通行、イヤホン着用など危険な状態で走行され、いつ事故に遭うかと危険な目で見ている。

レンタル自転車利用者に対する交通安全指導や取締りの状況は如何か。

交通課長： レンタル自転車であるか否かにかかわらず、自転車に対する交通指導取締りは継続して実施しており、軽微な違反に対するレッドカードの交付のほか、悪質違反に対する赤切符の交付を実施している。

また、自治体や企業主催の各種交通安全講習において、自転車の安全利用に関する教養を実施しているほか、イベントにおいて自転車シミュレータを活用した参加体験型の交通安全教育を実施している。

今後は、来年4月1日に施行される自転車に対する交通反則通告制度を含めた広報を実施していく。

また、ダテバイクの事業者に対しては、警察本部からの依頼により、アプリを開くたび、季節ごとの県警からの広報が表示されるようになっており、通年ヘルメットの利用を広報しているほか、現在は夕暮れ時の交通事故防止「ラ・ラ・ラ運動」に関する広報を行っている。

レンタル自転車の事業者においては、自ら主体となって交通安全広報を実施しており、アプリやホームページを通じて正しい交通ルール of 広報を行っている。

田中委員： 承知した。

(4) 車間距離等について

高橋委員： 停止線よりも大幅に距離をおいて停止している車両や必要以上に車間距離をあけて停車している車を多く見かける。

その影響のひとつとして、右折車線が短い場合にはすぐに車線がいっぱいになっているところを見かける。

どこかの機関で呼び掛け等があるのか教えて欲しい。

交通課長： 車間距離の保持について、停止中どの程度の距離を取るべきか明示されたものはなく、自動車学校などでは、一般的に前の車両のタイヤが見える程度と教えていることが多いものの、実際は

運転者が安全と感じる感覚で停止しているのが現状である。

車間距離は、その状況に合わせて判断すべきであり、車間距離を詰めて停止することを推奨した場合、前方が渋滞しているにもかかわらず交差点に進入し他の交通を阻害する等の結果になることも想定される。

緊急自動車の通行の妨げになっているなど、特定の場合を除いて、警察や他の機関であっても、根拠のないことを指導することはできないのでご理解をお願いしたい。

高橋委員： 承知した。

(5) 若年層に対する特殊詐欺被害対策について

寺下委員： 特殊詐欺事件について、高齢者のみならず若い層にも被害者が出ている。

更に若年層が犯罪に巻き込まれている様子も報道されているがこれらに対する対策等は如何か。

生安課長： 特殊詐欺被害については、被害件数、被害金額ともに昨年を上回っている現状で、そのうち65歳未満の被害者が、被害件数の半数以上を占め、特に20代、30代の被害が増加している。

若年層は、詐欺被害の手口に無知であったり、社会経験の乏しさから、不安を煽られて被害に遭うケースも少なくない。

また、10代の少年が、安易に闇バイトに応募し、犯罪実行役として検挙される事案も後を絶たない状況である。

当署では、中学校や高校、大学等の教育機関と連携し、インターネットの安全利用や薬物乱用防止と併せて、特殊詐欺の被害者加害者にならないための講話を実施し、被害防止や規範意識の醸成を図っている。

警察本部では、SNS等のインターネットによる情報発信を行っているほか、当署でも、地域のボランティアや大学生、中高生で構成された学生ボランティアと連携し、防犯キャンペーンを通じて、若年層に直接呼び掛ける活動を行っている。

引き続きあらゆる機会を通じて、特殊詐欺の被害及び加担防止を呼び掛けていくとともに、社会情勢に適応した対策を随時検討して参りたい。

寺下委員： 承知した。

(6) 子ども女性脅威事犯の発生状況や対策について

引地委員： みやぎセキュリティメールにおいて女性や男子学生に対する容姿撮影や声掛け、暴力といった内容の報告を目にする。

管内における発生状況とこれに対する対策、万が一被害に遭った際の正しい対処方法を教えていただきたい。

生安課長： 子どもや女性を対象とした声かけ事案や容姿撮影事案などのいわゆる脅威事犯について、当署管内において、令和7年9月末現在、129件発生しており、前年に比べ26件増加している。

下校、帰宅途中の児童や学生が被害に遭っているほか、地下鉄や電車、バスの車内で痴漢や盗撮などの被害に遭う事案や、飲酒後の帰宅途中に、女性が被害に遭うという事案も発生している。

当署では、警戒活動と併せてイヤホン着用やスマートフォンを見ながらの「ながら歩き」の危険性や夜間帯の単独歩行、街灯のない人通りのない場所を避けるなどの防犯広報を実施するとともに、小学校や保育所などにおいて児童に対する安全教育を実施している。

被害に遭った際には、周囲の方に助けを求め、安全を確保した上で、速やかに警察に通報していただきたい。

被害を目撃した際にも、警察にお知らせいただきたい。

引地委員： 承知した。

(7) オンラインカジノ等の違法賭博に対する対策・取組について

引地委員： 若年層がオンラインカジノで逮捕されるニュースを見たが、オンラインカジノ等の違法賭博について、仙台北警察署で行われている対策・取組は如何か。

生安課長： 当署においては、各種相談や別事件の証拠品からの発見、サイバーパトロールなどを通じて犯罪の端緒把握に努めている。

犯罪抑止対策として、これまでのインターネットの安全利用に関する広報啓発とともに、日本国内からオンラインカジノで賭博を行うことが犯罪であることを若い世代を中心に広く広報し、規範意識の向上に努めていきたい。

特殊詐欺や闇バイトを含め、若年層のインターネット利用に起因するあらゆる犯罪について、正しい知識や情報を発信し、共有し合うことが大切であり、引き続き地域の皆様の御協力を得ながら、対策を講じていきたい。

引地委員： 承知した。